



Do you like

some more

ENGLISH?



英語の発音とリスニング① ~日本語の発音と英語の発音~



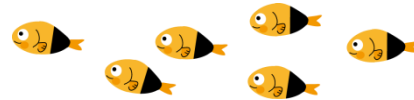
今回から日本人にとって、難しいと言われる英語の発音とリスニングについて考えていきます。まず、「なぜ日本人が英語の発音を難しく感じるのか」に注目して、日本語の発音との違いをお話ししたいと思います。

前回、ローマ字のお話を少ししましたね。仮名文字をローマ字にするときに、日本語の一つの「音」には、からならず「母音」a・i・u・e・oが含まれるということに気がついたでしょうか？

母国語は、誰でも自然に話せるようになっているものなので、案外あらためて日本語の音について気にしたことがないかもしれません。例を見ながら音について考えてみましょう。

日本語の“魚”は、カタカナにすると“サカナ”、ローマ字で“SAKANA”です。さて、この言葉にいくつの音がありますか？

サ・カ・ナ・・・だから、3つですか？

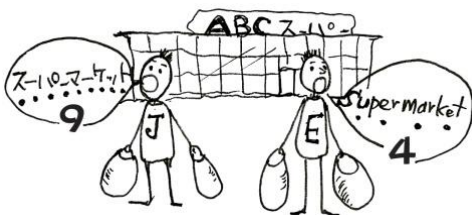


そうですね。では魚の英語 fish は？

フィッシュだから・・・2つ。

残念！実はここが英語と日本語の違いで、英語は「音節」というもので音を数えます。英語の fish の音は「1つ」です。

えーっ？なんでー！？



少し難しい話になりますが、英語を発音するときの音の最小の単位を“音素”と呼びます。音素の集まりが“音節”です。fish の音素は、f/i/sh で3つ、音節は、母音を中心としたまとまりなので、母音の数<sup>1</sup>と同じで、この場合1つです。

一方、日本語は、基本的に母音、または、子音+母音で、1つの音となり、これを拍・モーラと呼びます。音韻学では、英語を「音節言語」、日本語を「モーラ(拍)言語」といいます。日本語の音は、手をたたいて数えるとよくわかります。

五七五の俳句を数えるときのような要領ですね。



「ふるいけや (5モーラ) かわずとびこむ (7モーラ) みずのおと (5モーラ)」 なるほど～！

<sup>1</sup> 文末の発音しない e (例 cake) は数えない。二重母音 (例 boat) は1つとして数える。

英語の音節の数は、母音の数ですから、次のようになります。

pen(1音節) kitchen(2音節) beautiful(3音節) entertainment(4音節)

 この日本語と英語の音の教え方が、発音やリスニングとどう関係するのですか？

ある程度、母国語が自分の中で確立した後に外国語を学ぶ場合、多くの方は、無意識でその外国語の音を母国語の似た「音」に置き換えてインプットします。母国にない音は、似た母国語に置き換えます。アウトプットするときも母国語の音で発音するために、いわゆる「お国訛り」というものが現れます。英語 native のように発音しようと思ったら、まず、母国語の発音を忘れる、母国語にない音は訓練する必要があります。大人よりも子供の方がうまく発音できる、と言われます。それは、子供は母国語の発音が確立していないため、耳で聞いたものを置き換えることなしに、そのまま口に出せるからです。

 なるほど～、俺ももっと早くに英語を習っておけばよかった！

日本人が苦手な発音

その①母音がない音素に母音をつけてしまうこと。特に外来語のカタカナでなじみがあるものは無意識でつけてしまいがちです。

fish→フィッシュ→fishu rabbit→ラビット→rabbito salad→サラダ→salada

その②日本語にない音を似ている（と思っている）音に置き換える


r/l → らりるれろ the → ザ think → シンク ship → シップ など

ところで、母国語の音に置き換えるのは日本人だけではなく、ほかの国の人も同じ条件です。かつては、英語がとても苦手とされたフランスの例をあげておきますね。

英単語にはフランス語が派生したラテン語や中世フランス語を語源としたものがたくさんあり、ボキャブラリー的には有利なはずですが、発音、特に母音の発音やイントネーションがまったく違うということで“英語発音下手”な国の一つでした。一番の特徴は、フランス語ではhが無音なので、フランス人がh音を発音するのは難しい。例えば、フランス訛りだとhouseはアウス、代名詞のheはイーなどになるので、



He has a handmade hat in his house は **イー アズ ア アンドメイド アット イン イズ アウス** となって、何を言っているのか分からない・・・ということも起こります。

 日本人以外にも発音が苦手な国の人がいるのですね！

ただ、ここ30年間で、フランスの英語教育がかなり変わって、今は普通に英語を発音できる人が多く、若い人たちは流ちょうな英語を話します。日本人も頑張りましょう！

次回から、さらに発音とリスニングの関係を考えていきたいと思います。

To be continued...

